【議事録】 第２回学校運営協議会

１．開会

２．会長挨拶

３．学校長挨拶

各取り組みの紹介

・6/15 放課後通学路清掃を実施
　昭和５９年からスタート

・6/21 文化の森で演劇フェスタ

・6/26 3 年生遠足（USJ）

・8/4 中学校体験入学

・10/10 金泉寺お接待→始まりは地蔵寺でのお接待から
　音楽部の演奏やお菓子などをお渡しした

・10/13 120 周年記念式典

・10/31～　徳島県高等学校総合文化祭
　写真部門２名奨励賞　書道部２名受賞　　近畿総文祭及び全国高文祭に出品
　茶道部２名　美術部２名　奨励賞

・11/6　徳島工業短期大学の留学生とサッカー部との交流

・あさんウォーキングフェスタ　ボランティア

・進路は概ね順調に決定してきている

４．協議

⑴　地域連携の取り組みについて

・探究学習について　アクサ生命から防災についての支援を今年度いただいた。何かあったときは近隣の方が来る可能性があるが、備蓄品が足りない。あたたかい食べ物やトイレの問題を少しでも改善する備えを行っていく。秋の研修会において気仙沼を訪れたが、そこでは中学生が語り部として活動していた。統廃合が進む中での防災をどうしていくかも考えせられた。

　学校公開の日に合わせてヤングケアラーの講演を行った。高校生世代にもヤングケアラーが多いが自分で気づいていないことが多い。学校は警察や児相から話が来て初めて把握することがある。

・本校は板野町の指定避難所となっていないが緊急避難所として一時的に使用することはできるよう毛布等の少しの備えはある。町と現在取り決めをしているのは防災倉庫の使用のみ。体育館と武道場が避難所（160 人）として使用できるようにもしている。

・防災倉庫の中身の点検は学校が行っているのか。物資が少ないと聞いている。防災倉庫に入れるものを購入してもよいのではないか。生徒ともに考えられるとよいのでは。

・各小中も含めて、町に話をしておきたい。

・支援学校では国府が避難所として指定されているようだ。

・来年度から日本全国の避難所に関するソフト面が洗い直しされる。現場で連携する必要があれば板野町での取り組みも更新していくべきだろう。

・避難所を初期段階で運営するのは結局行政ではなく避難民だ。学生が運営に関わってくれるのは安全・安心につながる。災害時は居住地域で避難するので、各地に巣立っていっても学習していれば役に立つのではないか。
・探究学習の講師として次年度活用を考えていく。
・避難所として R7 に工業短大は登録された。対象は地域住民。発生時に学生や教職員がいるのか、いないのか、で変わるが本校は寮を備えているので、対応策を考えておかなければいけない。
・熊本の事例を見ても、交流があるところは復旧・復興が早い。解決しなければいけないことをおざなりにしておくと後々大きな問題になりがちである。
・生徒に防災士はいるのか。校内で活動をしているのか。
・毎年２人ずつ資格取得の講習会に参加しているため最大４人は在籍している。
・徳島県もそうだが多くの防災士は特に活動を指定されてはいない。
・フェーズフリー（災害時と日常とをつなぐこと）について、学校の備品等を生徒とともに検討してみるのもよいのではないか。
・外国人の方や子どもがいる方は板野高校に避難させるなど、地域で重なっている場合に、避難所の指定場所を決めてみても良いかもしれない。
・空調が入ったことで、避難所に指定されるかもしれない。
・ヤングケアラーについて、本人が意識せず行っているので、なかなか対応が難しいところではないか。
・近隣に立派な総教センターがあるのだが、あまり連携されてないように思えるので、もっと繋がっていけばよいのではないか。道の駅いたの、ではセンターとハロウィンイベントを行った。学区再編の問題もあるが、地域との連携を深めていくのも必要だろう。
・文化の館との連携もできるのではないか。
５.その他 事務局より、今後の行事日程等について連絡した。
６.閉会